

第3回長尾地区学校再編計画地域協議会 会議録

日 時：平成19年12月14日（金）午後7時00分から9時15分

場 所：長尾支所 2階会議室

参加者：委員18名（欠席10名）

事務局：教育総務課長、学校教育課長、担当職員4名

傍聴人：なし

（会議内容）

1. さぬき市学校再編計画地域協議会の傍聴について

傍聴の手続き、遵守事項、会場の秩序維持の規定について委員に諮った結果、出席委員の賛同により承認。

2. 議 題

（1）第2回長尾地区学校再編計画地域協議会結果の報告

事務局より、第2回地域協議会結果の報告。

（2）議 事

「小学校の適正配置について」

（質疑内容）

（事務局）造田地区より住民並びに保護者の総意として、小学校、幼稚園の存続を意見書として教育委員会へ提出しされたことを報告する。

（委員）学校が無くなれば、造田地区が衰退する。地区住民は不安を持っている。そのため、造田地区の民意を聞いて取りまとめをする必要があると考え、造田地区推進協議会を設置した。協議の結果、造田小学校の存続という意見になった。12月5日、教育委員会へ意見書を提出。造田幼稚園、小学校の存続を求めた。

（委員）寒川、大川では、造田地区のような地域性の問題はなかったか。

（事務局）建設の位置、通学手段についての意見が大半であった。大きな意見としては、地域を越えた小学校の再編も考えられるのではないかという意見。ただし、基本的には、地域と小学校というのは非常に結びつきが強いので、旧町では1校ずつ残したいとのこと。

（委員）多和地区は、中学校統合の際、旧多和村と長尾との取り決めがあった。このことは守ってほしい。また、過去に三木町から多和小学校へ通学をしていたことがある。再編になった場合はどうなるのか。また、槇川分校の取扱はどうなるのか。

（事務局）その当時の取り決めについては、確認をする。なお、再編計画では、槇川分校は廃校と考えている。

(委員) 前山ダムの建設時に、学校を移築した。前山小は廃校にしないという約束であった。また、特認校にもなっている。できれば存続を希望する。

(委員) スクールバスを利用できなかった時に、巡回バスを使用する際は、無料にできるのか。

(事務局) 無料の方向で考えたい。

(委員) 要所ごとにスクールバスが止まるというのは、バス停を基準にしたことか。

(事務局) ある一定の区間でバス停を設置する考えである。

(委員) 多和地区は学校を中心にすれば、三方に分かれている。大窪寺の方向については、ステーションを学校に置かれた場合、小学生は大変である。今後の計画するうえで、その事を考慮してほしい。

(事務局) その点を考慮し、計画をする。

(委員) 学校施設の改築、増築の計画予定は。

(事務局) 造田小学校は、一部耐震補強で今の施設は使用できる。長尾小学校は、基本的には建て替えとなる。また、再編に時間がかかるという結論になれば、耐震補強工事に切り替えなければならない。

(委員) 行政は、地域の活性化といいながら、小学校等を地域から遠ざけている。それでいいのかという疑問がある。

(事務局) 学校がなくなれば、地域が衰退するという考え方も当然であると思うが、学校がなくなっても、地域を活性化する方法をこれから考えて行かなければならないと思う。また、多和小は、平成 20 年、21 年は、入学者がいない。前山小は、20 年 1 人、21 年が 4 人、その後は 3 人ずつになる。そういう実態がある。

(委員) スクールバス等の細かい所をもっと知りたい。具体的な内容の提示がなければ判断できない。

(事務局) 具体的な事例を今回示そうと考えていたが、造田の経緯があって、根本的な話を詰めなければならないと思い、今回資料を持ってこなかった。前山、多和について、選択肢として統合という事を判断する材料は、次回の地域協議会で提示する。基本的にはスクールバスの話になる。

(委員) 多和地区の住民は、通学に関して意見を持っている。それと、跡地利用、分校の廃止についても地域の意見を聞く必要がある。

(イ) 次回の日程について

平成 20 年 1 月 18 日 (金) 午後 7 時

場所：長尾支所